

## 研究計画概要

助成年度・種別	2023年度 若手研究助成
研究者	大高 実奈
所属	東洋大学大学院
研究テーマ	電車内痴漢の環境要因が被害後の通報・相談・対処行動に与える影響
研究計画概要	<p>電車内で痴漢の被害に遭っても、ほとんどの人は被害届を出さず、被害について第三者や相談機関に相談する人も少ない。その理由として、大した被害でなかったこと、犯人が分からないこと、時間がないことなどが挙げられる。しかし、実際にそれらの要因が被害時の通報・相談行動を抑制するか検証した研究はない。</p> <p>本研究では、痴漢のターゲットとされやすい若年層の女性を対象として、場面想定法を用いたウェブ調査を行い、電車内痴漢の環境要因が被害時の行動に及ぼす影響について検討する。調査内で協力者は、時間的余裕の有無、被害の程度、犯人の特定の可否の条件の異なる 8 種類の電車内痴漢のシナリオのいずれかを読み、自分がそのような被害に遭ったとしたら、どのような通報・相談・その他の対処行動をとるか(あるいはとらないか、とれないか)について回答する。</p> <p>本研究の結果により、行動を抑制している環境条件が明らかになると、通報・相談・対処行動を促進する施策について考案する知見が得られる。また、どのような社会制度や広報活動などがあれば被害時に通報・相談しやすいかについても意見を収集し、効果の高いサービス、広告媒体やその方法について検討する。</p>
選考委員からのコメント	<p>電車内痴漢をいかに抑止するかは、従来からその必要性が指摘されていた社会安全課題である。本研究は、「被害後の通報・相談・対処行動」の生起に影響する要因を明らかにすると同時に、どのような制度、サービス、広報活動が被害後のそうした行動の支えとなるかを明らかにしようとするものである。暗数が多く実態の把握も困難である一方、日常的に発生していることが予想される犯罪であり、対策につながる知見が得られることを期待したい。</p>